

◆◆◆ 當山 達彦 議員 ◆◆◆



農業振興

**質** 平成28年度農振協との行政懇談会において、各部会から多くの要望があったと思われませんが、各部会で共通する要望を、お伺い致します。

**答** 農林水産課長 佐渡山安正

一点目に「簡易ハウス助成金の過去3年間の設置件数及び金額で、どれくらい執行されているか」、2点目に「防風垣の苗木の無償提供」、3点目に「物価、消費税の増税に伴い、農家経営を圧迫しているので、農業資材にも助成を願いたい」という要望、この3点が上げられております。

**質** 6月の一般質問で二国県の農業政策の動向を重視しながら検討する一との等弁がありました、今後どの様に検討していくのか。

**答** 農林水産課長 佐渡山安正

化学肥料の範囲も広げ、防除資材や防虫ネットも補助の中に追加し、農業振興に努めているところです。

**質** 肥料に関して、現在7%という補助ですが、10%に上げることはできないのか。

**答** 農林水産課長 佐渡山安正

補助率を、7%から10%に上げるということについては、かなり厳しいというのが、我々の認識です。

**質** 平成27年度と同じ質問をしているが、村長は前回の答弁の中で、この補助金に関し、一括交付金を利用した沖縄の特殊な事業に使えるものであり、検討するという答弁でしたが、その後の進展は。

**答** 村長 長浜善口

一括交付金では、事業要綱の中にはありませんでしたので、そういった話はしておりません。

**質** 畜産業に関する補助について、補助を受け農業所得が上がったと思われませんか。

導入する前と、導入後の効果を調査したことがあるか。

**答** 農林水産課長 佐渡山安正

優良繁殖牛の導入に係る事業

を継続し、2、3年後から成果が出てくるのではないかと考えております。

引き続き、その部分については、検証は重ねて参りたいと思っております。

公共施設耐震基準診断

**質** 公共施設耐震基準診断について、該当する建物は、何件あるか。

**答** 総務課長 新里勝弘

耐震化促進法による耐震診断の義務化となる建物は、今のところございません。

**質** 公共施設で、耐力度に心配される建物があるか。

**答** 総務課長 新里勝弘

昭和56年、それ以前に建てられた建物としては、山田の体育施設、喜瀬武原の青年会館、元齒科診療所が、その以前に建てられた建物です。

それで耐震化の懸念は、しているところですか。

**質** 恩納村農業技術支援センター

は築2年目で、会議室、トイレの2カ所雨漏りが発生しております。これに、該当しないのか。

**答** 農林水産課長 佐渡山安正

新年度において、対策できればと思っております。

**質** 恩納村工事請負契約書の様式

の中で、第45条、瑕疵担保というのがありますが、業者に対して請求したことは。

**答** 農林水産課長 佐渡山安正

そこら辺は調査の上、我々としても判断して参りたいと思っております。



恩納村農業技術支援センターの雨漏りの状況

◆◆◆ 又吉 貢 議員 ◆◆◆



中学校統合

**質** どのような特徴のある学校にしたいのか。

**答** 学校教育課長 石川 司

中学校教育課程については、学習指導要領等によらない教育課程を編成して、理科教育、外国語教育、また、キャリア教育を「3本柱」としてやっていきたい。

理科教育は、沖縄科学技術大

学院大学との教育予定等を協議調整し、講師の派遣における共同事業を実施したい。

外国語教育は、引き続き現在配置しているALTを配置し、第2外国語、中国語、韓国語あたりの外部指導員等を検討して、一歩踏み込んだ外国語教育の充実を、検討したい。

キャリア教育は、民間企業等を活用した体験型学習を実施し、職業間の充実を図っていききたい。

**質** 外国語、理科、を中心にしていくという話ではありませんが、そこに配置される先生方、それに合った先生方を配置して頂きたい。恐らく2、3年に1回の異動があつて、例えば異動したばかりだと、恩納村の中学校に呼びこは多少難しくなると思います。

**答** 学校教育課長 石川 司

現在、平成32年4月の開校に向けて、県の人事担当課とのヒアリングの中で、人事の配置も検討して頂く様な要望、要請をしております。

**質** 環境が二気変わる、早目に立ち上げて説明、事前にやっつけかないといけない、早目に立ち上げられないか。

**答** 学校教育課長 石川 司

そこら辺は、準備室が立ち上がる前の部会設置の前に、PTAと話していききたい。

**質** 統合後の「空き教室」、教育委員会としてはどの様に考えているのか。

**答** 学校教育課長 石川 司

その活用については、公的施設を活用した放課後児童クラブの設置を中心に、関係課と検討を進めていきたい。

**質** 「空き教室」、どこが空くのか、決まっているのか。

**答** 学校教育課長 石川 司

普通学級については各学校3学級、特別課程においては理科教室、家庭科教室、大体数字的に出ております。

**質** 空き教室が、決まっていれば、福祉などに使えるか。

**答** 学校教育課長 石川 司

確かに、県外ではありませんが、福祉施設等、教育課程に影響のない事業を、展開している学校もあります。

村のニーズも調査しながら、活用していく。

**質** 学童は、教室「1つ」か「2つ」。残りの教室もあると思います。懸念されているのは、「車の出入りが増える、関係者以外の方が入ってくる」などと思いませんか。

**答** 学校教育課長 石川 司

そこは入り口を変えたり、本館ではなく別館の方を空けて、その辺を地域と活用できる方法を考えて頂きたい。

**質** おっしゃった様に、学校教育の中で被害が出ない様な形でできればと考えております。

**答** 学校教育課長 石川 司